公　　民　［ 倫理 ］　（100 点　50 分）

2019 年 7 月 4 日（木）1 限　実施
前期②考査
千葉県立長生高等学校　第 3 学年　全組
Edited by K.Kataoka

注　意　事　項

１　試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。

２　解答用紙はマークシート式です。

３　受験番号はアルファベットを数字に直し，次の例のように５桁で記入してマークを忘れないこと。
例　３年Ｄ組１番　→　30401

４　試験中に解答用紙の不足，問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を挙げて監督者に知らせなさい。

５　試験終了後，問題冊子は持ち帰って復習をするとともに，答案返却の際に持参すること。

倫　　理

（解答番号［1］～［50］）

第１問　次の文章を読み下の問い（**問１～問５**）に答えよ。（配点　20）

ソクラテスの言行の指し示していた意味の究明，とくに問答を通じて倫理的徳目(勇気，節制，美など)を明確に定義しようとした努力の継承･発展が，プラトン哲学の基本的動因となっている。ソクラテスの問い，例えば「美とは何か」を満たすべき「まさに美であるもの」が，プラトンによって人間の真の知の対象となり理想となる［　１　］として積極的に措定されるようになる。(a)これがイデアである。イデア論は，倫理や価値の領域をこえて，広く自然･世界解釈全般に適用され，存在と生成の問題すべてにわたる統一的な説明原理となってゆく。これと並行して，「何よりも魂をたいせつにせよ」というソクラテスの主張は，「イデアを認識するために魂･精神をできるだけ身体･感覚の影響から純化せよ」という要請として継承され，魂･精神は永遠不滅のイデアと類縁関係にあって，本来［　２　］であるという確信となる。イデア界とその認識努力の究極には，「学ぶべき最大のもの」として，「［　３　］のイデア」がある。仮説･前提を廃棄しつつ上方の原理へとさかのぼり，「［　３　］のイデア」の直知にまで到達することを目ざす，純粋思惟によるイデア界の探究がディアレクティケと呼ばれ，哲学的営為の最上位におかれる。以上がプラトン哲学の基本構想であるが，中期末から後期にかけての著作においては，それをより強固なものとするための論理的反省や認識論的基礎の批判的考察がなされるとともに，多くの新しい発展的要因が付加される。魂概念は，「自己自身を動かすもの」という新たな規定を介して，「世界霊魂」の考えへと発展し，「範型」としてのイデアおよび生成の場としての「空間」とあわせて，プラトンの自然観，宇宙像を支える基本原理となる。彼の哲学は，ソクラテスの言行に示唆されていた可能性の究明から出発して，価値と認識と存在とを統一的に把握する一つの形而上学を目ざしたものといえるが，その発展はつねに理想的な国家社会の実現への努力と一体をなしている。理想のポリスの在り方を大胆に描いた『［　４　］』や，よりリアルな国制改革を論じた『法律』の二大著作は，政治の書としても，後世に大きな影響を与えている。

問１　文章中の空欄［　１　］～［　４　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［　１　］
① 魂　　② 真実在
③ 個物　　④ 現象

［　２　］
① 天に昇るもの　　② 輪廻するもの
③ 原子からなるもの　　④ 不死なるもの

［　３　］
① 善　　② 聖
③ 真　　④ 美

［　４　］
① 国家　　② 饗宴
③ 政治学　　④ ニコマコス倫理学

問２　下線部(a)に関して，次のイデアについての説明文中の空欄［　５　］～［　７　］に入る最も適当なものを，下の①～④のうちから一つずつ選べ。

プラトン哲学では，イデアとは肉体の目によってではなく，魂の目によって見られる形を意味する。日常の生の流れのなかでわれわれのかかわる個別の感覚事物や，われわれのなす個別の行為は，それらをそのもの自体として切り離してみるとき，いずれも，ある観点からみれば美しく，正しいものであっても，他の観点からみれば醜く，不正なものとして現れてもくるが，イデアはいかなる観点からみても，たとえば，「美のイデア」についてはそれはいつも美しく，「正のイデア」についてはそれはいつも正しい。

個別の感覚事物，個別の行為のもつ多姿性（それぞれが多様な，かつ，反対の述語を受け入れうること）に対して，イデアのもつ［　５　］がその特性である。イデアとのかかわりによって魂のうちにおける理性の「視」が成り立つと考えられる。そこで，個別の事物が美しいものであり，正しいものであるとすれば，それは，これらのものがそのもの自体として美または正であることによってではなく，それらが「美」または「正」のイデアを［　６　］することによってであるとされた。また，絶えず流動変化していると見える世界は，イデアにのっとり，イデアを範型として形成されるとも語られた。さらに，このようなイデアの知は魂の本然の生のうちにすでに与えられているものであり，それが日常の生のうちでは忘却されているが，感覚される事物のうちにこれと似たものを見ることによって［　７　］されてくるのだともされた。こうして，イデアは，魂がその本然のあり方（＝真）を回復しようとしておこす愛知（＝哲学）の運動をその端初と終端において限定して，愛知の運動を成り立たせるものである。

［　５　］①　両義性　　②　多様性　　③　単一性　　④　複数性

［　６　］①　流出　　②　想起　　③　範型　　④　分有

［　７　］①　流出　　②　想起　　③　範型　　④　分有

問３　アリストテレスがプラトンのイデアについて語った説明文中の空欄［　８　］に入る最も適当なものを下の①～④のうちから一つ選べ。

プラトンの体系は，大部分の点で，ピュタゴラス派の人々に従うものであったが，しかしある独自の特質を持っていた。若いときプラトンはまずクラテュロスに親しみ，ヘラクレイトス的な学説に親しんだ。およそ［　８　］的な世界は全体が常に流転状態にあって，それいついてはいかなる学問的知識もあり得ない，という考え方である。そして後年にいたっても，プラトンはなおこうした見解を保持していた。そして，ソクラテスは，自然的世界全体を念頭におかず，もっぱら道徳上の問題のみに考察を限定して，この領域において普遍的なものを探究し，定義ということに集中した最初の人であったが，プラトンは彼を継承して，定義の問題は［　８　］的な事物に関わるものではなく，別種の存在に関わるものだと考えた。［　８　］的な事物はつねに変化しつつある以上，それらについての一般的な定義はあり得ない，というのがその理由である。そうした別種の存在を，プラトンはイデアと呼んだ。

①　感覚　　②　超越　　③　直観　　④　絶対

問４　プラトンは，洞窟の比喩(ひゆ)を用いて彼の思想を説いた。その比喩の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［9］（2006 年センター本試験）

① 多くの人々は，魂が肉体から解放されるまで，快楽や欲望の束縛から脱することができない。それはちょうど，囚人が洞窟の中に死ぬまで縛りつけられて逃げられないのと似ている。

② 多くの人々は,個人的な生活にしか目を向けず,社会的理想を追求しようとはしない。それはちょうど，洞窟の中で生活している人々が，そこでの生活に安住し，洞窟の外に出て理想国家を建設しようとしないのと似ている。

③ 多くの人々は，普遍的な真理など存在せず，相対的にしか真理は語れないとする。それはちょうど，人々がそれぞれの洞窟の中でそれぞれの基準で真偽を判断し，その正否に他人は口を出せないのと似ている。

④ 多くの人々は，感覚されたものを実在だと思い込んでいる。それはちょうど，洞窟の壁に向かって繋(つな)がれている囚人が，壁に映った背後の事物の影を実物だと思い込んでしまうのと似ている。

問５　プラトンは，魂の三部分の関係に基づいて国家のあり方を説明した。彼の国家についての思想として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［10］（2005 年センター本試）

① 一人の王の統治は，知恵を愛する王による統治であっても，つねに独裁制に陥る危険を孕(はら)んでいる。それゆえ防衛者階級も生産者階級も知恵・勇気・節制を身につけ，民主的に政治を行う共和制において正義が実現する。

② 統治者階級は，知恵を身につけ，防衛者階級を支配し，防衛者階級は，勇気を身につけ，生産者階級を支配する。さらに生産者階級が防衛者階級に従い節制を身につけたとき，国家の三部分に調和が生まれ，正義が実現する。

③ 知恵を愛する者が王になることも，王が知恵を愛するようになることも，いずれも現実的には難しい。知恵を愛する者が，勇気を身につけた防衛者階級と節制を身につけた生産者階級とを統治するとき，正義が実現する。

④ 知恵を身につけた統治者階級が，防衛者階級に対しては臆病と無謀を避け勇気を身につけるよう習慣づけ，生産者階級に対しては放縦と鈍感を避け節制を身につけるよう習慣づける。このようなときに正義が実現する。

第２問　次の文章を読み下の問い（**問１～問６**）に答えよ。（配点　20）

アリストテレスは師のプラトンの思想を引きつぎつつも，プラトンの理想主義的な考え方を修正し，より現実を重視する思想を展開した。プラトンはこの現実を［　11　］したところに存在するイデアを真の実在とし，現実の個々の事物はその模像，影にすぎないとしたが，アリストテレスは，イデアは個々の事物に［　12　］しており，真に実在しているのは，この馬，この机といった感覚でとらえられる個物であるとした。例えば目の前にいる現実の馬を離れて，馬のイデアが存在するのではなく，その馬のうちに馬のイデアは存在するのである。

アリストテレスはこの［　12　］的にとらえられたイデアを形相（エイドス）とよび，個物は，素材となる［　13　］とそれに形を与える形相から成ると考えた。例えば，机の［　13　］は木材であり，その形相はその机の型，構造である。さらに，彼は，すべての運動や変化は，［　13　］が自分のうちにあらかじめふくんでいた形相を実現していく過程であるとした。例えば，樫の実が樫の木になるという場合，樫の実という［　13　］の中に，もともと樫の木という形相がふくまれていたのであり，それが現実的になったのが樫の木であるということである。このアリストテレスの自然観は［　14　］的自然観と呼ばれ，中世のキリスト教神学の中にもとり入れられ，近代の科学的自然観が成立するまで，ヨーロッパの中心的な自然観となった。

問１　文章中の空欄［　11　］～［　14　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［　11　］
① 内在　② 質料
③ 実体　④ 超越

［　12　］
① 内在　② 質料
③ 実体　④ 超越

［　13　］
① 内在　② 質料
③ 実体　④ 超越

［　14　］
① 原因論　② 機械論
③ 目的論　④ 形相論

問２　アリストテレスの著作として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［15］

① パイドン　② ソクラテスの弁明　③ 饗宴　④ ニコマコス倫理学

問３　次のアリストテレスのプロフィールの文中の空欄［16］～［17］に入る最も適当なものを下の①～④のうちから一つずつ選べ。

北東ギリシアのスタゲイラに生まれる。父はマケドニア王の侍医ニコマコス。アテナイに上り，プラトンの学校で師の死まで 20 年間研究生活を送る。プラトンの没後アテナイを去り，マケドニア王に招かれ，王子［　16　］の家庭教師として 7 年間をすごす。アレクサンドロスが王位継承して後，アリストテレスはマケドニア支配下になったアテナイに帰って，北東郊外の［　17　］に新しい学校を開く。ここには書物も多く収集され，後世の本格的な図書館の先駆ともなった。この［　17　］校の学頭をつとめていた 12 年間は，研究･教育の両面で最も円熟した時期であったが，前 323 年［　16　］がバビロンで急死すると，アテナイでは反マケドニアの機運が高まり，マケドニア側の人物と見られたアリストテレスは不敬神のかどで訴えられ，母の出身地のカルキスにのがれて翌年その地で病没した。

［16］①　ダレイオス　②　アレクサンドロス　③　フィリッポス　④　クセルクセス

［17］①　リュケイオン　②　ストアポイキレ　③　アカデメイア　④　ペリパトス

問４　次の文はアリストテレスの著作『形而上学』の一節である。文中の空欄［　18　］に入る最も適当な語を，下の①～④のうちから一つ選べ。

［　18　］といわれるのは，単純物体，たとえば土や火や水やその他このような物体，また一般に物体やこれら諸物体から構成された者ども，すなわち生物や神的なものども，及びこれらの諸部分のことである。これらすべてが［　18　］といわれるが，そのわけは，これらが他のいかなる基体（主語）の述語（属性）でもなくて，かえって他の物事がこれらの述語であるからである。

①　論理　　②　質料　　③　実体　　④　形相

問５　アリストテレスの自然観の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［19］（2018 年センター本試験）

①　自然界の事物は，質料に形相が与えられることで成り立っており，事物は質料の実現という目的に向かって生成・発展していく。
②　自然界の事物は，質料と形相とが結び付いて成り立っており，事物は形相の実現という目的に向かって生成・発展していく。
③　自然界の事物は，質料に形相が与えられることで成り立っており，形相がもつ潜在性によって，偶然的で自由な仕方で生成・発展していく。
④　自然界の事物は，質料と形相とが結び付いて成り立っており，質料がもつ潜在性によって，偶然的で自由な仕方で生成・発展していく。

問２　次のアリストテレスの論理学，三段論法についての記述の空欄［**ア**］［**イ**］［**ウ**］に入る語の組み合わせとして最も適当なものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。［20］

命題論理では，
〈材料(肉，タマネギ，ジャガイモ，ニンジン，カレー粉)があればカレーができる〉
という知識を，たとえば以下のように表す。

(〈肉がある〉∧〈タマネギがある〉∧〈ジャガイモがある〉∧〈ニンジンがある〉∧〈カレー粉がある〉)　⇒〈カレーができる〉

上で，〈　〉で囲まれた文がおのおの命題を表し，“∧”や“⇒”が文の間の論理的関係を表す論理記号である。“～∧…”は〈～かつ…〉と読み，“～⇒…”は〈～ならば…〉と読む。

上の規則が知識ベースに蓄えられていて，さらに〈肉がある〉〈タマネギがある〉〈ジャガイモがある〉〈ニンジンがある〉〈カレー粉がある〉という事実が知識ベースに書かれていれば，〈カレーができる〉ということが推論できる。
これは，三段論法と呼ばれる以下の推論規則

前提１　［**ア**］
前提２　［**イ**］
――――――――――――――――
結論　　［**ウ**］

を用いた結論の導出であり，いつでも正しい結論が得られることが論理的に保証されている。

① ［**ア**］A である　［**イ**］B である　［**ウ**］A ならば B である
② ［**ア**］A である　［**イ**］A ならば B である［**ウ**］B である
③ ［**ア**］B である　［**イ**］A である　［**ウ**］A ならば B である
④ ［**ア**］B である　［**イ**］A ならば B である　［**ウ**］A である
⑤ ［**ア**］A ならば B である　［**イ**］A である　［**ウ**］B である
⑥ ［**ア**］A ならば B である　［**イ**］B である　［**ウ**］A である

第３問　次の文章を読み下の問い（**問１～問９**）に答えよ。（配点　26）

アリストテレスの［　21　］主義的な立場は，人間としての生き方についても見られる。彼は，(a)幸福こそがあらゆる人間の最終目標であり，最高善であるとした。では，その幸福とは何か。

彼によれば，人間を人間たらしめているのは，人間に固有のはたらきである理性であるから，理性の活動を完成することが最高の幸福であり，最高善である。人間の生活は［　22　］的生活・政治的生活・(b)観想的生活に分けられ，それぞれに快楽・［　23　］・知恵という善が対応する。そのなかでは，真理を探究する観想的生活が，「最善なるもの（理性）がそれに固有な徳を備えてする活動」としてもっとも望ましいものである。

さらに，アリストテレスは，人間の魂を理性的な領域と感情・欲望の領域との二つに分け，それに対応させて，徳を (c)知性的徳と倫理的徳に分類した。知的徳は観想的生活に即した徳であり，倫理的徳は，知性的徳に導かれた正しい行為のくり返しによって習慣づけられる［　24　］的徳である。感情・欲望とつながりをもつ日常生活においては，過度と不足の両極端を避けて，その (d)中庸を選ぶことをくり返し，倫理的徳を形成していくことが求められる。

彼は，たくさんの倫理的徳のなかでも，(e)正義と［　25　］を重視した。ポリスにおける共同生活は，理性と情意の二つの面でかたく結びつけられることで成り立つ。そして，共同生活を理性で結びつける原理が正義であり，情意で結びつける原理が［　25　］なのである。

問１　文章中の空欄［　21　］～［　25　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［21］
① 絶対　② 理想
③ 現実　④ 形相

［22］
① 享楽　② 知性
③ 蓄財　④ 矜恃

［23］
① 名誉　② 判断
③ 権力　④ 栄光

［24］
① 本性　② 習性
③ 慣性　④ 惰性

［25］
① ソフィア　② メソテース
③ フィリア　④ ウーシア

問２　下線部(a)に関して，幸福を意味するギリシア語として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［26］

① ΒΙΒΛΟΣ　② ΔΙΚΗ　③ ΑΓΟΡΑ　④ ΕΥΔΑΙΜΟΝΙΑ

問３　文中の下線部（b）に関して，アリストテレスは『形而上学』の中で，神の生活を観想的生活と呼んでいる。次の『形而上学』からの引用文のまとめとして最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［27］

このような原理，第一の不動の動者に，それゆえ天界と自然とはつながっているのである。そしてこの或る者の暮らしは，我々人間にとっても最善の，しかし我々にはほんのわずかな時しか楽しめないところの最善の暮らしである。この者は常にこのような最善の暮らしにあり，そのわけは，彼の現実態は同時に快楽でもあるからである。それゆえ覚醒も感覚も思惟も最も快である。そしてその思惟は自体的な思惟であって，最も善なる者をその対象とし，思惟自体も最も優れたものであるから，その対象も最も優れたものである。その理性は理性自らを思惟するが，この理性はそれを思惟している時，すでに自らその思惟対象そのものになっている。それゆえ理性（思惟者）とその対象（思惟対象）は同じものである。だから，その対象を受け入れ得る状態（思惟可能態）というよりも，むしろ現に自ら所有している状態（思惟現実態）の方こそ思惟の保つ神的な状態である。そしてその観想は最も快であり最も善である。

①　神の観想的生活は，連続的で永遠の生命の中で営まれる最も快適な可能態である。
②　神の観想的生活は，自らを思惟する「思惟の思惟」という最善の現実態である。
③　第一の不動の動者である神は，神に次いで尊い対象を思惟する永遠の観想者である。
④　第一の不動の動者である神は，思惟の連続に苦労しながらも人間に幸福を与える。

問４　文中の下線部（c）に関して，知性的徳に所属するものとして最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［28］

①　節制　　②　矜恃　　③　勇気　　④　思慮

問５　文中の下線部（d）に関して，「機知」の徳は何の中庸か，正しいものを次の①～④のうちから一つ選べ。［29］
①　放縦と無感覚　　②　虚栄と卑屈
③　道化とやぼ　　④　浪費とけち

問６　文中の下線部（e）に関して，次の正義に関するアリストテレスの言葉の中の空欄［30］に入る語として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

一方では違法的なものが不正な者と考えられ，他方では過多をむさぼる不公平な人も不正なものと考えられているから，明らかにまた正しい者というのにも，［　30　］的な者と公平な者との区別があろう。

①　合法　　②　公正　　③　過少　　④　明示

問７　文中の［　A　］・［　B　］に入れる語句の組合せとして最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［31］（2001 年センター本試験）

古代ギリシャは，正規の構成員たる「市民」によって自立的に運営される共同体（ポリス）からなっていた。そのポリスにおいて人類史上はじめて「民主制」という政治形態が出現した。ポリスに住まう人間の倫理を追究したアリストテレスにとって，正義は，まさしく「等しさ」を保障することを意味していた。彼はこれを，各人の働きに応じて名誉や報酬をあてがうことで「等しさ」を実現する［　A　］と，商取引や裁判において当事者相互の利害と得失を勘案して「等しさ」を回復する［　B　］とに分けたのであった。

① A　配分的正義　　B　調整的（矯正的）正義
② A　調整的（矯正的）正義　　B　配分的正義
③ A　部分的正義　　B　全体的正義
④ A　全体的正義　　B　部分的正義

問８　アリストテレスによる「悲劇」を定義した次の文章を読み，**その趣旨と合致しないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。［32］

悲劇とは，一定の大きさを備え完結した高貴な行為，の再現であり，快い効果を与える言葉を使用し，しかも作品の部分部分によってそれぞれの媒体を別々に用い，叙述によってではなく行為する人物たちによって行われ，あわれみとおそれを通じて，そのような感情の浄化（カタルシス）を達成するものである。　（アリストテレス『詩学』）

① 普通の人間が，卑劣さや邪悪さにゆえにではなく，何らかのあやまちのゆえに不幸になるストーリーは人々にあわれみを感じさせる。
② 悪い人が不幸から幸福に転じるストーリーは，見る人の感情に訴えるものがなくカタルシスを達成できない。
③ よい人が幸福から不幸に転じるストーリーは，忌まわしいものと感じられるから避けた方がよい。
④ すぐれた悲劇は，観客におそれとあわれみを感じさせないように配慮しながら，人間の不幸と幸福いずれにも共感できるようなものである。

問９　人間固有な働きの中でも最高の働きと評価される「テオリア」についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［33］（2004年センター本試験）

① テオリアとは，主に制作活動に関わる理性の働きである。
② テオリアとは，原理を直感的に把握する理性の働きである。
③ テオリアとは，厳密な論証・推論としての理性の働きである。
④ テオリアとは，主に行為・実践を導く理性の働きである。

第４問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問６**）に答えよ。（配点　34）

前４世紀，［　34　］のアレクサンドロス大王の東方遠征によって大帝国が形成されると，ギリシアとオリエントの文化が混交した (a)ヘレニズム文化が生まれた。それまでのソクラテス，プラトン，アリストテレスたちに共通する思想的課題は，「ポリスの一員として人間はいかに生きるべきか」であった。しかし，ヘレニズム時代にはいり，世界国家（コスモポリス）が出現してポリスが崩壊すると，公的生活よりも内面に幸福を求める［　35　］主義的な思想があらわれた。エピクロスを祖とするエピクロス派の思想と，(b)ゼノンを祖とするストア派の思想がそれである。

エピクロス派は，刹那的な肉体的快楽ではなく，永続する精神的快楽に真の幸福があるとする快楽主義の立場に立って，［　36　］を得ることを賢者の理想とした。この派の特色としては，デモクリトスの原子論を継承したことをあげることができる。彼らは，一切の現象を原子の離合集散と見なすことによって，魂の平安をみだすさまざまな迷信や［　37　］の恐怖から自由になることができると考えた。「［　38　］」がこの派の信条であったが，それは，公共の生活も［　36　］をみだすもとになるからであった。

これに対して，ストア派は，禁欲主義の立場に立って，喜怒哀楽の情念に動かされない状態に徹するところに賢者の理想を見た。アパテイアは，人間の理性によって［　39　］を制御していくところに実現されるが，人間の本性である理性は，宇宙つらぬく理法に通じている。ここからこの派は，「［　40　］にしたがって生きよ」をみずからの信条とした。

人間はすべて宇宙をつらぬく同一の理性にしたがうべきであるとするストア派の教えは，すべての人間の平等を強調し，ポリスにしばられない世界市民（コスモポリタン）としての生き方を生み出した。

ストア派の思想は，中世キリスト教の自然法思想を通して，近代自然法思想の一つの源流となった。この派からは，ローマ帝国期に，ネロ皇帝の師でのちに自殺させられた［　41　］，もと奴隷の［　42　］，ローマ皇帝 (c)マルクス・アウレリウスなどが出ている。

さらに，(d)懐疑派とよばれる立場の人々は，どんな信念にもその根拠を疑うことが可能であるとし，特定の信念に固執せず，判断を保留する道を説いた。彼らの探求と判断保留をめぐる姿勢は，のちにデカルトやヒュームなど近代の哲学者たちの思考に大きな影響をおよぼした。

その後，［　43　］らは，プラトンのイデア論を解釈しなおし，新プラトン主義とよばれる体系を築いた。それによれば，多様なものは，それに先立つ「［　44　］」から流出したとされる。つまり，万物を生み出し保全する力そのものである一者が枯れない泉のようにあふれ出して知性が生まれ，知性から魂が，魂から物質的世界が生まれた。したがって，魂はこのような流出の源である［　44　］への帰還を求めて，知性へとみずからを純化し，究極的には［　44　］との合一を目指そうとする。このような［　45　］主義的な洞察は，アウグスティヌスら初期キリスト教思想家をはじめ，その後の西洋思想に影響を与えた。

問１　文章中の空欄［　34　］～［　45　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［34］
① エジプト　　② サモス
③ シリア　　④ マケドニア

［35］
① 享楽　② 個人
③ 功利　④ 共同体

［36］
① アタラクシア　② アパテイア
③ アウタルケイア　④ アノミー

［37］
① 老　② 生
③ 病　④ 死

［38］
① 隠れて生きよ　② 自然に従え
③ 田園に死す　④ 正しく善く生きよ

［39］
① パトス　② ロゴス
③ ピュシス　④ ノモス

［40］
① 未来　② 自然
③ 理念　④ 欲望

［41］
① キケロ　② エピクテトス
③ セネカ　④ プロティノス

［42］
① キケロ　② エピクテトス
③ セネカ　④ プロティノス

［43］
① キケロ　② エピクテトス
③ セネカ　④ プロティノス

［44］
① ト・ヘン　② プシュケー
③ ヌース　④ コーラー

［45］
① 主知　② 快楽
③ 禁欲　④ 神秘

問２　下線部(a)に関して，ヘレニズム時代の学問について説明する文中の空欄［46］に入る語として最も適当なもの，下の①～④のうちから一つ選べ。

古代エジプトにおいて測量の技術より得られた図形に関する経験的知識はギリシアにもたらされて，論理的に整理されて体系化され，［　46　］学となった。ユークリッド(エウクレイデス前 300 ころ)はこれを集大成して『ストイケイア(原論)』全 13 巻を編んだ。ユークリッド［　46　］学とは本質的にこの著作に述べられている［　46　］学のことである。これは中学校や高校で学習する図形に関する性質をおもな内容としていて，初等［　46　］学とも呼ばれている。

① 地誌　② 代数　③ 積分　④ 幾何

問３　下線部(b)に関して，ゼノンが学んだキュニク派について，樽の中のディオゲネスについての言葉の中の空欄［　47　］に入る最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

人生においては何事も鍛錬なしには決してうまく行くことはないのであって，この鍛錬こそが万事を克服していく力を持っているのだと彼（ディオゲネス）は言っていたのである。だからして，人は無用な労苦ではなしに，自然にかなった労苦を選んで，幸福に生きるようにすべきであり，不幸な生を送るのは愚かなせいなのである。

つまりそれは，ちょうど享楽的な生活を送ることになれている人たちが，それと反対の生活にむかうときには不快を感ずるように，快楽と反対のもので鍛えられた人たちは，快楽そのものを軽蔑することに，むしろよりいっそうの快適さを感ずるからだというわけである。そしてこのことは，彼に言わせれば，［　47　］にまさるものは何もないとして，まさにヘラクレスが送ったのと同じ型の生活を送り通すことだったのである。(『ギリシア哲学者列伝』)

①　自由　　②　怠惰　　③　法　　④　本能

問４　下線部(c)に関して，『自省録』の中のマルクス･アウレリウスの言葉として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［48］

①　哲学をしている人が政治的支配の地位に就くか，政治的権力を持つ人々が哲学を学ばなければ，ひとびとが災いから逃れることはできない。
②　公共の福利のために統治を行うならば，その場合にそのような国制は必然的に正しい国制である。
③　攪乱，すなわち激しくかつ論理に従わない，過剰な衝動としての魂の動きがパトスである。
④　宇宙は国家のようなものだ。なぜならば人類全体が他のいかなる政体に属しているといえようか。

問題は次のページに続きます

問５　下線部(d)に関して，次のヘレニズム時代の懐疑主義についての説明を読み，その解釈として**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。［49］

セクストスは，ピュロン主義哲学が実践的なものであると強く主張する。われわれはピュロン主義者として生きることができる。ピュロン主義は単なる学究的営みではなく，その生き方は幸福をもたらす。というのは，セクストスの見解では，懐疑主義は無動揺（平静）へと導き，そのような無動揺（平静）のうちにこそ人間の幸福は発見されうるからである。

（『古代懐疑主義入門』より）

① 不幸は常に動揺に起因し，動揺それ自体は熱心から起こってくる。幸福達成のためには無動揺に到らねばならない。無動揺になるためには，物事を懸命に追求したり回避したりするのをやめなければならない。

② 心の動揺を防ぐためには，自分を取り巻く状況をしっかりと認識して，揺るがぬ信念を持って行動する態度が大切である。正しい判断能力を養うことによって不幸な運命を幸福に塗り替えることができる。

③ 懸命になるのは，追い求める（あるいは回避する）対象がよいもの（あるいは悪いもの）であるという思いなしを余分に持つからである。余分な思いなしを放棄すれば動揺はやむ。

④ 倫理的懐疑主義がもたらすのは，何が降りかかろうともそれを静かに受け入れ，それに対して超然としているという態度。物事が良いとか悪いとか考えなくなったとき，自分が何を達成するかについてもはや心配することはない。

問６　次の文章は，ストア派の理法の考え方を発展させたキケロが，法の位置づけについて述べたものである。その内容の説明として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［　50　］（2016 年センター本試験）

まるで盗賊が寄り合って制定した規則同様に，法律という名とは関わりのない多くの有害無益な規則が諸国に制定されているのは，驚いたことだ。例えば，無知で無経験な人間が薬の代わりに致死の毒を処方した場合，それは医者の処方であるとはとうてい言えないように，国家の場合にも，たとえ国民が有害な規則を受け入れたとしても，それは法律の名には値しないのだ。したがって，法律とは正邪の区別にほかならず，同時にまた，万物の根源であるあの太古以来の自然というものの表現でもあるのだ。そして，悪人を罰し善人を守護する任を帯びた，人の世の法律は，この自然を範として定められたものだ。
（『法律について』より）

① 法律は自然に従って定められる限り，善人と悪人を公正に裁くことができる。というのも，太古以来，善人の総意によって，自然そのものが管理され，形作られてきたからである。
② 法律は自然に従って定められる限り，善悪と正邪を誤りなく区別することができる。なぜなら，法が模範とすべき原初からの自然は，あらゆるものの根源でもあるからである。
③ 法律は自然に従って定められただけでは，善人と悪人を公正に裁くことはできない。というのも，法律を用いるのは国家であり，それを構成する国民は自然とは関わりがないからである。
④ 法律は自然に従って定められただけでは，善悪と正邪を誤りなく区別することはできない。なぜなら，豊富な知識や経験に基づかなければ，法律は有害なものともなり得るからである。

これで問題は終わりです。